

第9回IR推進会議 概要

参考資料1

<日時>

平成30年11月14日(水) 10:00～12:00

<場所>

大阪府庁本館5階 議会特別会議室(大)

<検討事項にかかる主な意見①>

テーマ	主な意見
◆MICE施設 (1・2号施設) について	<ul style="list-style-type: none">日本のMICEはキャパシティーがあまりないため、4万㎡以上を使用するコンベンションやエキシビションを取れていない傾向が高いが、世界では、4万㎡以上の開催が年々増えており、その前提で検討を進めるべき。MICEのI、インセンティブの部分がほとんど考慮されていないので、工夫して取り込んでいくべき。世界のトレンドを踏まえつつ、どのようなテーマや規模の会議、展示会を誘致していくかという視点に立って、IRにどのようなMICE施設が必要かを検討していくべき。世界のMICE誘致を推進するため、IR事業者とうまく連携できる仕組みをつくるべき。国の示している「極めて大規模」「大規模」な国際会議や展示会の水準を見定めたくうえで、検討が必要。
◆魅力増進施設 (3号施設) について	<ul style="list-style-type: none">大阪では、伝統、文化、芸術等を融合、展開、応用などすることで、何か新しいものを生み出し、それを前面に押し出すべき。食について、大阪は強みがあり、様々な展開や新しいものも提示可能なので、コンテンツとして入れていくべき。テーマの絞り込みや、トレンドを踏まえて何年かでテーマを変えて、施設を更新していくのかなどについて、長期的な視点に立って、IR事業者など民間とも連携して検討していくことが必要。IR内だけでは広さに限界があるので、送客機能とも連携して、大阪・関西全域も含めた形で検討していくべき。
◆送客機能施設 (4号施設) について	<ul style="list-style-type: none">VRなどの現在の最先端技術は、IRができる頃には最先端ではなく、どんどん入れ替えていくことが必要なので、ベンチャーを活用するなど、安く、早く入れ替えが可能となるような手法を検討すべき。送客するための交通インフラについて、既存のものだけでなく、海路やヘリポートなど新たなものも含めて検討していくべき。

第9回IR推進会議 概要

<検討事項にかかる主な意見②>

テーマ	主な意見
◆宿泊施設 (5号施設) について	<ul style="list-style-type: none"> 海外のIRでも高級なホテルから安いホテルまでであるが、現在の国の考え方では、安く泊まりたい人はIR内で泊まれない可能性があり、今後の改装なども見据えて、フレキシブルに運用ができるよう国に要望すべき。 ターゲットごとにマーケティングを行ったうえで、数年後も見据えて、宿泊施設のあり方を検討していくべき。
◆その他施設 (6号施設) について	<ul style="list-style-type: none"> 情報サービスや移動手段などについても、集客にも関わってくるので、6号施設の中で検討していくべき。 世界の潮流であるデジタルや、関西のライフサイエンスなどを活かし、ベンチャー、大学、海外などとも幅広く連携して、従来にない発想でエンターテイメントなどを検討していくべき。 世界に類を見ないエンターテイメントを考えるうえで、オンリーワン、クリエイト、一つにまとめることで利便性があって分かりやすくする、という3つの要素が重要。
◆ギャンブル等 依存症対策 について	<ul style="list-style-type: none"> 啓発活動を行うことで、依存症にかかる通院のハードルを下げていくことが大事。 IRの動きと依存症対策としての大阪モデルの構築について、流れを合わせた形で出していくべき。 IR事業者の海外での取組み事例や、大学、国の研究所などの知見も合わせて検討していくべき。
◆夢洲における 防災の取組み について	<ul style="list-style-type: none"> 未曾有の大規模災害時には、想定外のマニュアルを超えた対応が求められるが、外国人も含めた情報提供が一番大きな問題で、大規模停電への対応や多言語対応などが求められる。